



# 説教 あなたは復活を信じるか

ヨハネによる福音書 第20章1〜23節

「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」(ヨハネによる福音書 第11章25〜26節)

## あなたは復活を信じるか

(ヨハネによる福音書11章)に示されていること



にし たに こう すけ  
**西谷 幸介**  
大学宗教主任

とですが、マルタとマリアという姉妹の兄弟ラザロが病死し、主イエスは泣き崩れる姉妹たちの前で、そのラザロを甦らされました。そのとき主イエスが姉マルタに言われたのが、「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか」(11:25,26)という、お言葉でした。

「あなたは復活を信じるか」——これが、復活祭(イースター)において、すべての人に問われている問いです。この主イエスの問いかけをしっかりと受け止め、それにたいして「信じます」と応答し告白する者となるとき、私たちの人生にたいして神は特別な力と恵みを加えてくださると、私は信じています。

## ラザロを復活させる前に問われた復活への信仰

そのことを私たちに悟らせることとして、皆さんに覚えていただきたいのが、今、主イエスが言われた言葉は、ラザロを甦らせる前にマルタに問いかけられた言葉である、ということです。そのことが伝えようとしているのは、復活というのはそれを目撃したり経験したりした後ではじめて納得し、信じますというようなことではなくて、本質的に、これから私に起こることとして、希望と信仰と

をもって把握すべきことなのだ、ということです。たしかに主イエスはラザロを事実、甦らせることによって(11:44)、マルタとマリアに復活とは絵空事ではないのだということを示されました。しかし、主イエスがラザロの復活に先立って復活信仰を促されたということから私たちが理解しなければならぬのは、復活とは、私たちがまず、今、ここで、「生きていて…信じる」ことができ、またそうすべきものなのだ、ということです。ラザロの復活を「見たから信じる」のではなく、「見ないのに信じる」信仰が大切なのです(20:29)。

## 生きていて味わうことができる復活信仰の力

このように、主イエスは、生きていて見ないで信じる復活信仰を私たちに説き、促してくださいました。しかし、復活というのはどのように起こるのか、という疑問が絶えず私たちを悩ませるのも事実です。その問題については、どうすればよいのでしょうか。どうすることもできません。すべて神さまにお任せすればよいのです。余計な、もっともらしい話を作り出す必要はありません。けれども、生きている限りの復活信仰の意味は私たちにはまったくわからずじまいである、というわけではありません。少しですがその力を前もって味わうことができます。

## 死んでいるようであるが、見よ、生きています

主イエスの「わたしを信じる者は、死んでも生きる」(11:25)という不思議な言葉をわかりやすく翻訳してくれているのは、使徒パウロの「死にかかっているようであるが、見よ、生きており」(IIコリント6:9-10語訳)という言葉です。これらの言葉が示しているのは、復活信仰に生きる者は、「死んだも向然だったのに、いや、生きています」という不思議な人生の体験をもち、そこであらかじめ復活の力と恵みを味わうことが許されている、ということです。スポーツに「敗者復活」というのがありますが、それに似ています。

## 他者のために命を献げたキリストへの神の究極の報償

イエス・キリストは人間の罪の償いのために死んでくださったのですが、神はそのキリストを甦らされました。聖書をよく読めば、このキリストの復活は明らかに人類の贖罪のためのその死にたいする神の究極の報償なのである、ということがわかります。十字架の死は犬死なわけではありません。それは人間として最高に高貴な、他者のための犠牲の死であったゆえに、神はその死に勇敢に立ち向かわれた御子にたいし「復活」という最高の栄誉をもって報いてくださったのです。唯一、

犠牲の死が死に打ち勝ちます。そして、私たちがイエス・キリストの救いを信じれば、誰でもその復活の姿にあやかる恵みが与えられるのです。ですから、救われた者はまた、感謝とともに、その後の生き方の中に少しでも他者のために生きるという主キリストの姿を映し出すべきなのです。そうした信仰をもつ者に、神は人生の途上であっても復活の喜びを先取りして味わわせてくださり、永遠のいのちの世界での恵いを約束して下さいます。

## 復活信仰がもたらす堅固な人生

そうした復活信仰は、私たちの生きた現実生活において、途方に暮れ、絶望に打ちのめされるような状況に陥っても、私たちをあわてさせず、落ち着かせ、希望を失うことなく、じっくりと再起と回復の道を歩ませてくれます。私たちがこの復活の信仰に堅く立つならば、私たちの人生は神に祝福され支えられた堅固なものとなるのです。

私たちはこのような復活の信仰を、復活祭の礼拝をととして、今一度強められたいと思います。「あなたは復活を信じるか」という主イエスの問いにたいして、皆さん、「信じます」と応答し告白しようではありませんか。

# 特集 あたらしい歩みへ——卒業

思い出がいっぱいの学院生活も、あとわずか。次のステージに向けて新しい一歩を踏み出す思いを、各部の方にききました。

Special Issue : A new step for something ; Graduate

## 感謝の日々

あさ ねほ とも み  
**浅沼 友巳**  
幼稚園保護者会会長



満員電車で揺られながら、息子の手を繋いで通った幼稚園生活も、まもなく終わりを迎えようとしています。慣れない年少の頃、「ママがいい」と泣きじゃくられ、一体どうしたらよいのかと不安が募る日々でした。それも今では、遠い昔のように思い出されます。慌てずにゆっくりと時間をかけて、安心できるまで待ちましようと思ってきました。

春は桜やチューリップの花が咲く中、新入園児のかわいい子どもたちを迎え、夏には元気いばい水遊びをし、秋には大きな銀杏の木が黄色に色づく下で運動会を行い、冬にはお父様がつくお餅つきで掛け声が響き渡ります。幼稚園では様々な行事を通して、自然の恵みに感謝しながら生活する喜びを子どもたちと一緒に学びました。一つ一つの経験が「実」を結び、年長になった息子にもたくましさを感じます。毎日の神様への祈りも、相手を思いやる心を育ててくれました。最近では帰りに、「きょうは○○ちゃんがかざでおやすみだったんだ」と気にかける日もあれば、「けんかしたけど○○くんにごめんねっていったよ」と少し照れくさそうに話す日もありました。信じる心を育み、共に生活する喜びを感じ、そして感謝できる人間へと成長させてくれたのだと思います。

神様のお導きの下、先生方、子どもたち、保護者の皆様と出会い、かけがえない時間を過ごせた事に感謝致します。まもなく年長組の子どもたちは、初等部生としての新たな一歩を踏み出します。幼稚園で過ごした三年間の宝物を胸に、この先も変わることなく、神様と共に子どもたちの成長を見守っていききたいと思います。

## ぼくのタラント

さとう りつ ま  
**佐藤 稜真**  
初等部6年

初等部では「あなたのタラントはなんですか。」とよく聞かれます。ぼくは初等部の6年間で「絵を描くこと」というタラントを見つけた。1年生の時、初等部カレンダーにぼくの描いたジャングルの絵が選ばれました。3年生になった時には、夏休みの課題で手紙作文コンクールに応募しました。ニジマスのつかみ取りをした時のことを絵手紙にすると、結果は金賞。その後、読書感想文コンクールでも優秀賞をいただきました。ただただ好きなだけの絵でしたが、人に認められ賞をとったことで、「絵を描くこと」が神様からぼくに与えられたタラントなのだと思います。

ぼくは、去年のペンテコステに洗礼を受けたので、神様といつも一緒、どんな時も神様とつながっていると、今までよりも感じるようになりました。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」(ヨハネ15:5)。ぼくの幼稚園の園歌にもなっているこの聖句は、読むと勇気が出てがんばろうという気持ちになります。

ぼくにはできないこと、苦手なことがたくさんあります。でも、絵を描き始めると止まらなくなり、時間を忘れてしまいます。人のタラントをうらやましく思うこともありません。しかし、色々なタラントの人がいていいのだから、ぼくは自分の祈りも、相手を思いやる心を育てていきます。ぼくにはまだ気づいていないタラントがあるかもしれません。これからも色々なことに挑戦して見つけていきたいです。



## 卒業という門をたたいて

すが けい だ  
**須賀 祐太**  
中等部3年



テストが始まるまであと1週間。ぼくは、おむろに自分の勉強机に向かい始めます。そして用意した本をめくり、1ページ目から読み始めます。その本を読むぼくの目は、真剣そのもの。そしてぼくの集中力とやる気は、誰にも負けません。机に向かっているぼくを見た時、みんなで口をそろえて言うでしょう。「勉強がんばってるね」と。しかしこの本には大小さまざまな枠があり、その中には、耳をねずみにかじられてしまった某猫型ロボットとメガネの少年が描かれ、ふき出しでのセリフや効果音があふれています。つまりぼくがこの時に読んでいたのは漫画なのです。漫画なんて普段は読まないのに、テスト前になるとなぜかつい読みたくなってしまふのです。

なぜテストの前になるとこのような行動をしてしまうのか。ある人に聞いてみたところ、もしテストの結果が悪かった時に自分に言い訳ができるようにこのような行動をとってしまうのだそうです。つまりぼくもどこの人間は、つらい道と楽な道の二つがあった時、つい楽な道を選んでしまふおろかな生き物なのです。そしてぼくもその一人です。

聖書の中には「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見い出す者は少ない。」(マタイ17:13,14)という聖句があります。この話は、イエス様が民衆に語ったたとえ話の一つです。そしてこの狭い門というのは、イエス様自身をあらわしています。つまりイエス様は、このたとえ話を通して、私たち人間にどんなつらい時でも、「広い門」という名の誘惑に負けず、ただ唯一の主である神のみを信じなさいという事を伝えたかったのです。

この中等部を卒業し、この先高校や大学、そして社会の中に挑むと今までの大きな苦労や試練、それともう誘惑がいくつもあはずです。しかしその度にこの聖句を思い出し、常に狭い門に進んでゆける人になりたいです。

ちなみに、先日テストが終わりに帰ると、解放感に満たされ自由を楽しみました。テレビを見た、ゲームをしたり様々な事をしました。しかし漫画を観る事は、一度もありませんでした。テスト前やテスト中は、あんなに読みたかったのに……。やっぱり誘惑は、怖いなあ。

## シヤローム

なご ぐち あい  
**谷口 愛**  
高等部3年

キャンドルが十字架の形に並べられた部屋で、宗教主任の小澤先生から初めて聖書を頂いた初等部1年生のなかよしキャンプから、私の12年間の青山学院での生活は始まったように思います。あの日から、神様と先生方に見守られながら青山学院で過ごしてきました。初等部での聖歌隊活動は、讃美歌を歌って神様を讃美することの楽しさを教えてくれました。高校生になり、母教会の霊南坂教会で聖歌隊として奉仕を始めました。クリスチャンホーミに生まれた私にとって教会は青山学院同様、私の原点となっています。また、YMCAキャンプ、初等部宗教プロジェクトでのフィリピンの子どもたちが学校へ通うためのお手伝い、ハンディをかかえた方との活動は、社会や世界に私の目を向けさせてくれました。中等部-高等部を経て、将来に国際的な仕事に就きたいと思うようになりました。

楽しく学びの多い青山学院での生活でしたが、時には困難にぶつかる時もありました。しかし卒業を迎える今振り返ってみると、いつも幸せに包まれていたことに気がつきました。それは、いつも神様が側にいてくださったからです。日々の礼拝や初等部-高等部で受けた聖書の授業や、ABF(聖書交友会)の活動を通して神様を見つめ続けることができ、神様の愛は家族からの愛と同じで、私がどんなに情けない状態の時も見捨てずに見守ってくださる無償の愛なのだということになりました。

そのような神様からの愛に応え、生涯を通して「地の塩、世の光」であることを目指す者になりたいです。その第一歩として、イエス様と神様への感謝と希望に満ち溢れるイースターの時、気持ちを新たに青山学院大学での生活を始めたいと思います。



## 主と共に歩む人生

なか たい さほ  
**中臺 咲歩**  
女子短期大学 子ども学科3年



私はクリスチャンホームで育ち、中学一年生の時に受洗しました。しかし、中高では学校の友だちにクリスチャンだとあまり言えませんでした。なぜならクリスチャンだと知られたら、嫌われるかもしれないという不安を抱いていたからです。そんな自分と向き合いたいと思い、キリスト教学校である青山学院女子短期大学への進学を希望しました。そして入学し、キリスト教と自分との関係を考える時間が与えられました。短大では、宗教活動委員会に所属しました。宗教活動委員会は礼拝奉仕や学内キリスト教行事での奉仕などが主な活動です。

そこから派生した学生主体のグループとして、「ろばのこ」という団体があります。「ろばのこ」では学生たちが集まり、共に賛美をし、祈り、聖書に耳を傾け、どのように感じたかを分かち合います。神様を中心とした交わりを、週1回程度実施しています。「ろばのこ」は異なる教派や、色々な考えを持っているメンバーによる集まりです。一人ひとり思いが違ってもあります。だからこそ、それぞれの考えを理解しながら、取り組むことに意味があると思っています。

青山祭では、「ろばのこ」のメンバーでチャペルコンサートをしました。その時に、大学でできたノンクリスチャンの友だちが見に来てくれました。友だちは何気なく、足を運んでくれたのかもかもしれません。しかし、その行動が私には印象的で、神様を伝えることが少しでもできたのかなと喜びを感じました。神様は私たちのための経験を、神様の最高のタイミングで準備してくださっているのだと思います。卒業後も、私たち一人ひとりを生かしてください。主と共に歩みながら、神様の素晴らしい愛をたくさんの人たちに伝えていきたいです。

## 10年先には

たか だい ち  
**高原 大知**  
大学 法学部4年

飛行機は不思議ですよね。重力に反して空を飛ぶのです。飛べる！と確信することは一つあります。くっついているエンジンと翼が強力なパワーを持っていることです。よく空港に行きます。飛行機を見ると、ふと考えます。人間のパワーってなんだろうかと。

大学生生活の中でパワーとなったことは「青山キリスト教学生会(ACF)」での活動だと確信しています。「この団体を何をしていたのですか?」と就職活動の時にほとんどの面接で聞かれました。待っていましたと言わんばかりに満面の笑みで「聖書を学んで人間の一番大切な部分を育てていました。」と答えました。面接官の食いつきは尋常ではありません。良くも悪くもこんな学生がいるのか?という顔をしていました。こんな学生を育てたのがACFです。ACFは、何か一つのことをするわけでもなく、メンバーが決まっているわけでもなく、青山学院大学に通う学生全員が試合(活動)の先発メンバーだと捉えています。控え選手はいません。高校時代に吹奏楽部でレギュラー争いをしていた自分にとっては不思議な世界でした。これはACFの大切にしていくスピリットも同じではないでしょうか。みんなが主役だよ。そんな活動も40年目を迎えました。賞や結果のために一つの活動をしていないのに、何年経っても皆の強いつながりがあります。次の節目である10年先がとても楽しみです。

私の人生設計では、32歳で海外支店に勤務する計画があります。どんな場所においてもACFの存在やACFで出会った仲間を忘れることはできないでしょう。学生という共通点は無くりますが、神様に繋がる家族であることは生涯続きます。大学生生活で大きく強く「力」を与えてくれたACF。「地の塩、世の光」として、パワフルに羽ばたきます。



## 高等部より

卒業礼拝  
3/8 火 高等部PS講堂  
説教 五十嵐 成見(花小金井教会牧師)  
イースター礼拝  
4/17 月 高等部PS講堂  
説教 伊藤 大輔(本多記念教会牧師)  
特別礼拝  
5/9 火 高等部PS講堂  
講師 椎名 雄一郎  
(活水学院オルガニスト)

## 女子短大より

卒業礼拝  
3/21 火 13:30~14:30 青山学院講堂  
説教 吉岡 康子(女子短期大学宗教主任)  
宗教活動委員会  
オリエンテーションキャンプ  
3/29 水, 30 木 伊豆天城山荘  
始業礼拝  
4/4 火 10:00~11:00 青山学院講堂  
説教 吉岡 康子  
イースター礼拝  
4/17 月 12:35~13:05  
チャペル・ウィーク  
5/8 日, 10 水, 12 金 12:35~13:20

## 大学より

大学宗教委員研修会  
3/2 木 10:00-15:00  
講師 土井 健司(関西学院大学教授)  
テーマ「キリスト教大学の社会福祉教育」  
卒業礼拝  
3/25 土  
① 9:00~ ガウチャー記念礼拝堂  
② 12:00~ ガウチャー記念礼拝堂

キリスト教推薦入学生  
オリエンテーション  
9:00~  
4/1 土 ガウチャー記念礼拝堂  
キリスト教概論 I  
オリエンテーション  
9:00~ ガウチャー記念礼拝堂  
4/3 日 5 水 礼拝堂  
新入生歓迎礼拝  
4/7 全 13 木  
(青 山) ガウチャー記念礼拝堂  
(相模原) ウェスレー・チャペル

チャペル・ウィーク  
5/22-26 全  
(青 山) ガウチャー記念礼拝堂  
(相模原) ウェスレー・チャペル  
聖書に親しむ会  
わかりやすく、楽しく聖書が学べます。  
(宗教主任担当)  
キリスト教文化に親しむ会  
文学、自然科学、社会問題、音楽などをキリスト教信仰との関わりにおいて語り合い、考え合います。  
(宗教委員、クリスチャン教員と宗教主任担当)

## 本部より

教職員新学年度礼拝  
4/4 火 17:00~  
ガウチャー記念礼拝堂